

次世代型コミュニケーションツール

LOUD

トークンエコノミー



目次

序章：はじめに	4
01：メタル文化と経済を未来に引き継ぐ環境を構築	7
文化 — メタルを愛する人々によるメタル文化の継承	9
メディア — 「BURRN！」がメディアのあり方を再定義する	9
信頼による投資 — 絆の強さを表すラウドトラスト	11
02：ファンとアーティストの新しい関係	13
新しい関係性の構築	14
トークンエコノミーが音楽の在り方を変える	16
"音を楽しむ"を次のステージへ	19
03：ラウドトークンエコノミーを支える5つの要素	21
アーティストへの愛と信頼が可視化されたコミュニティ	22
誰からもわかるファン同士のヒエラルキー	24
アーティストがファンを選べる	26
ファンがアーティストを育てる	28
アーティストが持つ権利・資金の流れを透明に	30
04：ステークホルダー	33
ファン	34
アーティスト	34
スポンサーなどの企業	35
権利ホルダー	36
05：バウンティの重要性	38
ファンとアーティストの信用と信頼の蓄積	39
BURRN！が伝えるバウンティ	40
06：ラウドトークンエコノミーから生まれる新規事業	42
ラウドフェス	43
ラウドEC&フリマ	45
ラウドアワード	46
ラウドサロン	47

ラウドTube	48
ラウドファンド	48
07：ラウドトークンエコノミー	50
トークンの循環	51
価値の最大化	52
個人への帰属	53
08：トークン設計	56
LOUD：ユーティリティトークン	57
TOKEN：セキュリティトークン	58
09：事業戦略	59
1stPhase — 新しいメタル業界のモデル	60
2ndPhase — LOUDによる新しい価値基準が生まれる	60
3rdPhase — メタル業界への新たなビジネスチャンスの創出	61
4thPhase — ラウドトークンエコノミーの成熟	61
10：システム開発	62
11：プロジェクトメンバー	64

序章

はじめに





「トークンエコノミー」代用貨幣を用いた経済圏を指す言葉です。

少しずつ世に浸透しつつありますが、果たしてその意味を適切に理解している方は多いと言えるでしょうか。ビットコインのように、仮想通貨を用いて世界中で広がっている経済圏はもちろん、ごく小規模のユーザーによって成り立つ経済圏もあり、トークンエコノミーは非常に幅広いものだわかります。

ただし、発展せずにそのまま閉じてしまう経済圏も少なくありません。

トークンエコノミーは、その経済圏に参加する人がいなければ成り立たない他、人々がトークンを積極的に送り合わなければ発展することはなし得ないでしょう。

これまでのトークンエコノミーでは、経済圏の構想が漠然としており、いかにトークンの価値を上げるかを目的とされたものが多く見受けられます。

トークンの価値を上げる方法として挙げられるのが、仮想通貨取引所への上場です。他のトークンや法定通貨と交換できる仕組みはユーザーにとって利便性の高いことですが、トークンエコノミーの本質が語られることはなく、そこには人々の投機的な意識のみが働いています。

トークンに法定通貨で換算できる価値を持たせ、実需としてのトークンではなくマネーゲームとして使われることが多いと言わざるを得ません。

トークンエコノミーは本来、トークンの価値を重視するものではなく、人々がいかにそのトークンを使うかが重要です。

誰かが何らかの目的でトークンを使ってやり取りをする必要があり、トークンの譲受を繰り返すうちにさらに他のユーザーがその輪に加わっていく、これが小さな経済圏であるトークンエコノミーの種となります。

このように、トークンを使って人と何かをやり取りする、そのひとつひとつの工程こそが、トークンエコノミーという小さな経済圏を発展させるカギとなるでしょう。

そして、いかにしてトークンを使う目的を作るかが、トークンエコノミー発展の重要課題です。トークンが人々の間で譲受される関係性を作るには、トークンを投機的な動きから切り離し、貯め込まずにやり取りをする流れに乗せなくてはなりません。

従来のトークンエコノミーの課題を解決すべく、ラウドトークンエコノミーは、音楽の中でもコアなジャンルである「メタル」に焦点を当て、アーティストとファンがお互いの絆を深めるツールとしてLOUDトークンを用います。



音楽は誰もが楽しめるものであり、曲が好き、アーティストが好き、メタルが好きという「好き」の気持ちのみで成り立つものです。ファンはアーティストのライブや新曲を楽しみ、アーティストはファンからの応援を受けてさらなる情熱を燃やしコンテンツを作る、このシンプルかつ強力な利害関係とも呼べる関係性で成り立ちます。

ラウドトークンエコノミーでは、ファンとアーティストはお互いへの愛、そしてメタルへの愛を表す活動を積極的に行うことで、メタル文化と経済の発展をもたらします。自身がファンとアーティスト双方に対する貢献活動を行い、努力したことが正当に評価される世界を作り、人々の間をトークンが行き交う環境を作り上げます。

ラウドトークンエコノミーは真にトークンが循環する仕組みを作り、メタルを通じてトークンエコノミーが拡大する理想的なモデルとなるでしょう。

このホワイトペーパーを通して、トークンエコノミーは何をなし得るのか、メタルというニッチなジャンルと掛け合わせたラウドトークンエコノミーは何ができるのか。人と人のつながりやトークンのやり取りがより現実的に行われる、絵空事ではない真のトークンエコノミーである「ラウドトークンエコノミー」についてぜひご覧ください。



01

メタル文化と経済を未来に引き継ぐ 環境を構築





メタル文化を次の世代に引き継ぐこと、メタルを伝えるメディアのあり方を変えること、投資の評価軸を変えること。「LOUD(ラウド)の可能性」をテーマに、ラウドトークンを用いた経済圏であるラウドトークンエコノミーは、メタル社会における文化と経済を維持できる環境を作ります。





文化 — メタルを愛する人々によるメタル文化の継承

メタルが好きなファンは、メタル音楽のみを好む傾向があるといえます。たとえメタルが嫌いになったとしても、代わりに他の音楽が好きになるということは稀です。それほどメタルのファンは一般的な「音楽好き」よりも、もっと違う形の愛があると言えます。

しかし、ラウドトークンエコノミーにおいてはそれこそが重要な意味を持ちます。LOUDは、メタルへの愛を可視化して、ファン同士がメタル業界への愛や貢献度を語り合うための指標となるものです。メタルファンの中には、ファンであることを自身の日常から切り離して生活をしている方が少なくありません。このようなファン同士が出会うと、メタルへの愛と共感が相乗効果を生み、より深く語らうことができるでしょう。

そこに、LOUDというお互いの価値基準をもとにして生まれたトークンが存在すると、さらなる相乗効果が期待できます。その繋がりを可視化してLOUDが流通すると、ブロックチェーン上に記録されたメタルを愛するトランザクションは改ざんされることなく、半永久的にメタル文化として続くでしょう。ラウドトークンエコノミー内でのメタルを愛するファンの活動記録により、メタル文化は長く引き継がれていきます。

メディア — 「BURRN！」がメディアのあり方を再定義する

アーティストの活動を伝えるメディアは、収益源となる広告主からの影響は極力小さいものにしたい一方、収益を上げる手段として、広告主からの広告費は事業を運営する上で欠かせないというジレンマがあります。正確で、良い情報をいち早く読者へ伝えたいという思い、そしてその情報から読者が何かしらの得て人生の糧にしてほしいという思い。メディアとは、本来そうあるべきでしょう。





しかし、インターネットの広がりによって情報が氾濫している今、メディアの力は衰え、何が正しい情報なのかという判断基準もあいまいになっており、その判断さえも読者に委ねられている状態です。メディア運営者が発信しているから、ある程度の裏どりがされていて、かつ広告スポンサーの手前下手な動きができない状況から、「メディアが発信している情報は正しいのだろう」という曖昧な考え方が働きます。情報の受け手となる読者に正確な情報を伝え、熱意あるフレッシュな情報を伝えるべく、メディアはステークホルダーひとりひとりをつなぐブリッジとしての役割が重要です。

トークンエコノミーにおいて、埋もれているステークホルダーに正当な報酬を得てもらうには、埋もれている状態から表に出てもらう必要があります。そこをメディアの力を使えば、良質なステークホルダーを見つけ出すことが可能になるでしょう。

個人に帰属する社会と経済を目指すにあたり、トークンエコノミーと親和性の高い役割を持ったメディアは重要です。アーティストが企画するバウンティと呼ばれる活動に参加することにより、ファンは頑張ったら頑張った分、個人であっても貢献した分だけ正当な報酬を得られる仕組みを作ることが可能です。この活動を一部ではなく、メディアはできるだけ多くのステークホルダーへ伝えることが重要になります。なぜなら、トークンエコノミーにおいて貢献度の高いステークホルダーは良質な読者であり、経済圏の中で手本となるべき存在でもあるからです。

アーティストがどのような活動をしているか、ファンとどのようなつながりを持っているのかなど、正確な情報とより専門的で濃密な話題を多くの人に伝えるメディアは非常に重要な存在です。ラウドトークンエコノミーでは、ファンやアーティストがお互いに共感し合えた濃い記事に関わったすべてのステークホルダーへ、スマートコントラクトを使って報酬となるトークンが正当に行き渡るような、そんなバウンティを企画します。

そして、ファンとファン、ファンとアーティスト、アーティストとアーティストのあたらしい関係を作るために、メタル業界を牽引してきた1984年創刊の雑誌「BURRN!」のウェブメディアである「BURRNオンライン」が、この役割を担います。

BURRNオンラインをはじめ、メディアがLOUDのトークンエコノミーに関わるステークホルダーの貢献活動を報じ、バウンティに関わる個人ひとりひとりに注目していきます。LOUDにおける貢献活動は、そのほとんどがメタル業界への貢献と同じ意味を持ちますが、この活動や貢献が、メディアを通じて編集者が報じることですらなるメタル業界の発展にもつながり、ステークホルダー間のコミュニケーションがスムーズになるでしょう。バウンティはLOUDを得るためトークンエコノミー内で行う活動ですが、その活動の記事ネタ



は高いオリジナリティを誇ります。そして、各自が行った活動はそのファンやアーティスト個人のポートフォリオと連動するため、信頼性が高くなると言えます。

それらを報じ、伝える役割を持つメディアは、LOUDのトークンエコノミーに関わるすべてのステークホルダーから真に必要とされる存在になるでしょう。

信頼による投資 — 絆の強さを表すラウドトラスト

ラウドトークンエコノミー内でのバウンティによる活動は、ブロックチェーンに記録されるため、改ざんされにくい形で半永久的に保存されます。これは、ファンとアーティストの関係性を誰もが理解できるよう可視化した、お互いの貢献活動と言えるでしょう。貢献活動を行ってきた記録となるトランザクションですが、アーティストにとってトランザクションはより多くのファンに愛されている証拠です。アーティストに貢献するための活動、すなわちバウンティをアーティスト側が用意することで、ファンはバウンティに参加して多くの報酬を獲得してもらえます。このポートフォリオやバウンティはアーティストの価値を示すためのバロメーターとなります。

ラウドトークンエコノミー内でのアーティスト同士による階層分け、すなわちヒエラルキーが構築されるために「安定した秩序」が生まれ、投機目的でアーティストに投資する際、ポートフォリオは信頼できる情報となるでしょう。バウンティに参加したファンが多ければ多いほど、貢献や支援が多いほど、アーティストの過去の信用が蓄積され、未来の信頼に変わります。その過程には、信頼のおける第三者を必要とすることなく、登場人物は純粹にファンとアーティストのみで関係が成立します。

ラウドトークンエコノミーには、音楽を愛するファンやアーティストにとって、これまでにない大きなメリットがあります。これまでのようにCDの購入枚数の多さでヒエラルキー上位のファンや貢献度を決めるのではなく、LOUDというトークンを使うことでファンとアーティストが直接繋がって支援できるからです。ファン同士のヒエラルキーが誰もが納得する形で可視化され、ラウドトークンエコノミーに関わるすべての人に大きなメリットをもたらします。





投資家はアーティストごとに用意されたセキュリティトークンを購入することで投資の機会を得られ、その投資が良質なものを判断する材料として、信頼が可視化されたポートフォリオが用いられます。そして、アーティストが得た利益の一部は投資家にリターンされるという仕組みです。

ラウドトークンエコノミーでの投資の評価基準は、楽曲がどれだけ売れたかではなく、経済圏の中でどのようなトランザクションを発生させるかが鍵となります。トランザクションのひとつひとつがファンとアーティストの絆の強さを表す信頼の証であり、ファンからアーティストへの愛を示すものと言えます。バウンティに自ら参加し、貢献活動を行うファンの行動により、アーティストに対するトランザクションは信頼性の高いものになり、ひとつひとつが思い入れの強い強固なトランザクションになるでしょう。良質、かつ大量のトランザクションを築いてきたアーティストは、それだけ強くファンから支援されている才能であり、投資家にとっては貴重な投資対象です。ラウドトラストは、ラウドトークンエコノミー内で投資を行いたい投資家に、新しい評価軸を提案し続けます。



02

ファンとアーティストの新しい関係





新しい関係性の構築

アーティストは、自身の活動につながる企画となるバウンティを行います。バウンティを行うメリットとして、ファンとアーティストの距離がぐっと縮まることが挙げられます。ファンはアーティストに対して直接的な貢献ができ、アーティストはファンとの絆を深められ、次につながる創作意欲の向上につながるでしょう。バウンティを行うアーティストとバウンティに参加するファン、これまでの音楽を提供する側・聴く側という関係だけでなく、より深いつながりを持つことができます。バウンティに参加することはボランティアという形ではなく、アーティストからの感謝の気持ちをLOUDというトークンにして残せるだけでなく、この記録はブロックチェーン上に半永久的に残り続けるため、ファンとアーティストの「絆」を目に見える形で表現できるでしょう。

この絆が可視化されることで、ファンの中での順位が明確になるため、アーティストが本当に大事にしていきたいファンが誰なのかがわかるようになります。ファンはアーティストから誰よりも大事にされたいと思う欲求が働き、アーティストの要望に応えたいと思うため、ファンの中のトップを目指してバウンティに積極的に参加するでしょう。バウンティが活発に行われるほどアーティストのモチベーション向上につながり、ファンはアーティストに愛を伝えたい、貢献したい思いが強まります。これらの活動はすべてブロックチェーンに記録され、積み重ねられていくため、ファンとアーティスト双方の自信につながるでしょう。

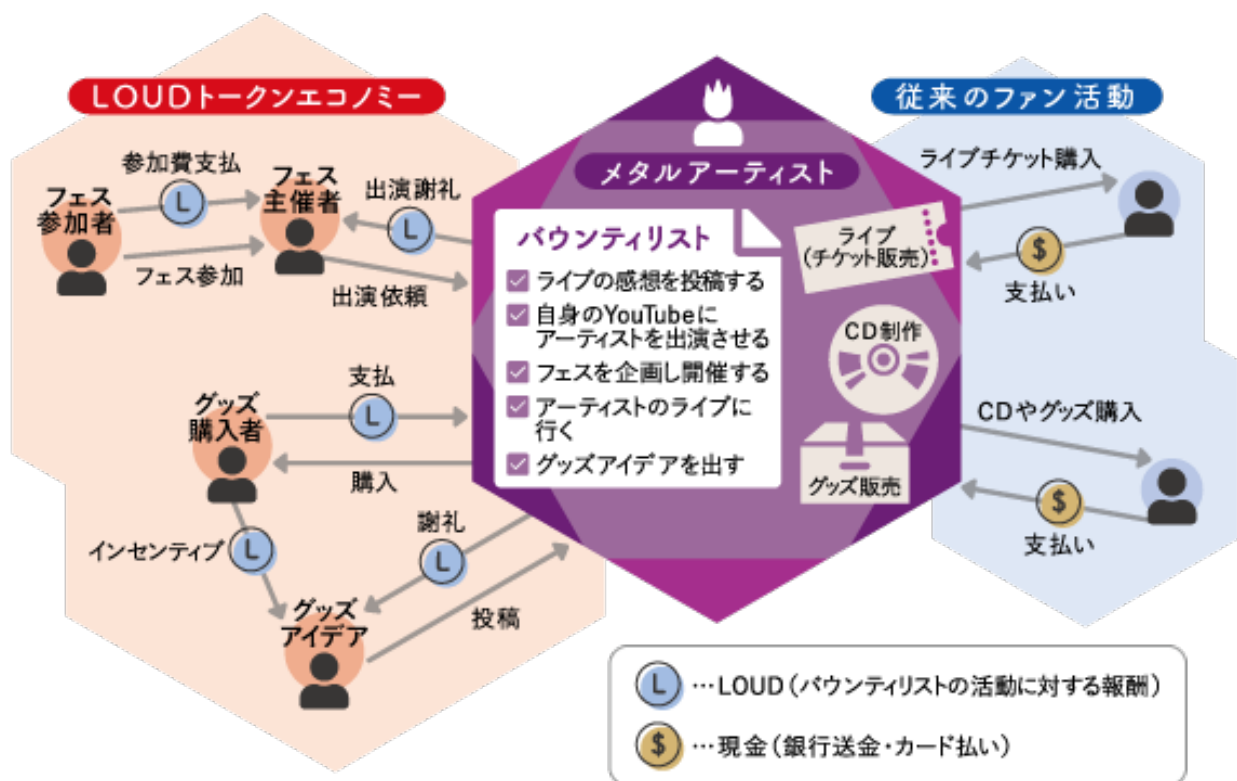
この仕組みは、これまでのファンとアーティストの関係性を見直すきっかけとなります。これまではファンがCDを購入してもアーティストからは誰が購入したのかわからず、1枚という数字のみを把握していました。しかし、ラウドトークンエコノミーでは少額でもコツコツと積み重ねて応援をしてくれたファンが誰なのかわかるため、アーティストがよりファンを身近に感じられるほか、ファンも応援における満足度が高くなります。ラウドトークンエコノミーではCDやグッズを買ったり、多くのお金を使って貢献をするのではなく、バウンティに参加して「ファンができること」でアーティストに気持ちを伝えることができます。

これが、ラウドトークンエコノミーにおけるファンとアーティストの新しい関係性であり、ファンとアーティスト本来の「絆」なのです。



ファンはLOUDを通じてアーティストの活動を支え、アーティストはファンからの過去の支援を蓄積しているため、いつの間にかファンとアーティスト、お互いに信頼できる関係性が構築されています。

アーティスト活動の次回作に期待して支援をしたり、アーティストへの愛を形にして伝えたいと願うファンは投げ銭や支援型のバウンティに参加してLOUDを送り、その記録となるトランザクションはアーティストの人気のバロメーターとなります。



アーティスト同士、ファン同士、違うアーティストのファン同士など、さまざまな人がこのトランザクションからなるバロメーターを見て人気の度合いを確かめ合うことができ、信頼の強さを測るだけでなく次なる才能の発掘にもつながるでしょう。

このトランザクションには、正当な報酬を受け取った記録のみが残されているため、ファンはもちろんファン以外の第三者が見ても、誰もが納得できるヒエラルキー(順位)が生まれ、安定した秩序が生まれるでしょう。





トークンエコノミーが音楽の在り方を変える

アーティストが企画するバウンティは、ファンとアーティストの絆をより強固にしていける活動です。バウンティはボランティアのように、一過性のものではありません。ファンはバウンティに参加することで、アーティストへの愛を伝える手段や応援をしているというアピールができます。逆にアーティストはファンに対して感謝の気持ちをトークンという形にして返すことができ、この積み重ねによってお互いの絆が強まっていくでしょう。

バウンティに参加したファンへ報酬が送られたり、ファンからアーティストに支援を行ったりしたことは、ブロックチェーン上にすべて記録されていきます。データとして記録されるトランザクションは改ざんされることがないため、フェアな環境で半永久的に記録が残り続けます。世界中の誰もが確認できるようネットワークで分散された台帳の上で記録され、過去の信用を少しずつフェアな環境で蓄積できるほか、銀行を介した取引のように第三者を必要とすることなくその取引を証明できることになります。

この取引は、バウンティを行うなど特定の条件を満たした際に発動するようにプログラミングされた「スマートコントラクト」によって行われるため、誰しものがその働きに見合った結果を平等に受けられます。ファンはアーティストに対する貢献活動を頑張れば頑張った分だけ、正當に評価されるようになります。

報酬を獲得し、その報酬をさらにアーティストの支援に使ったり、自分の活動に使ったりすることができるため、トークンの循環が円滑に行われるでしょう。

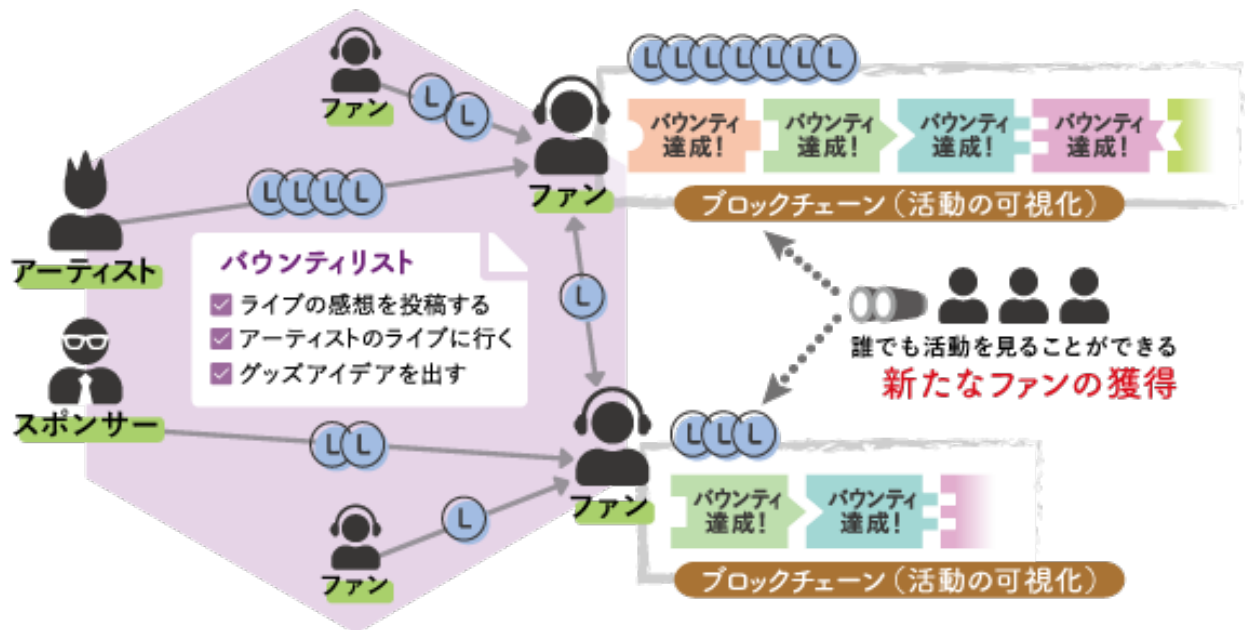
このように、頑張ったことがそのまま評価され、トークンという形で正當に評価される「健全な環境」ができあがります。この環境下で活動を行うファンやアーティストは、真に音楽を愛し、お互いの活動を支え合う者だけが残るため、さらなるファンや新たなアーティストを巻き込んでコミュニティ・経済圏が成長していくでしょう。

ラウドトークンエコノミーに参加するのは、音楽を愛するファンとアーティストだけではありません。

アーティストの活動をサポートし、ファンとの実質的なつながりを作る運営・事務所をはじめ、音楽をビジネスとして扱うメディアなども参加します。

メタルをビジネスとして捉える事業者、アーティストのバックアップを行いライブやイベントを盛り上げる運営、ファンとアーティスト双方の活動を報じるメディアなどは、それぞれが収益を上げるためにトークンを配布します。





最終目標として、これらの事業者はトークン価値を高めて自身の収益を上げていきますが、そのためにはどうやってトークンの価値を高められるかが課題となります。トークンの価値が高まればより大きなイベントを行ったり、アーティストやファンへの還元を行ったり、それがひいては事業者自身の成長にもつながります。

どうしたらトークンの価値を上げられるのかという課題がありますが、大きなポイントとしてはいかにトークンを使ってもらえるか、需要があるかということです。

そのため、運営やメディアなどのトークン配布者は、ファンやアーティストに対してトークンを使ってもらえるような企画や運営を行ったり、よりファンとアーティストの関係が密になるような活動を行います。

ファンとアーティスト、双方が楽しみながら直接的に絆を深め合うことで、お互いのつながりがより強固なものになれば、運営やメディアなどが配布するトークンもより一層使われる機会が増え、トークンの価値も上がるでしょう。





LOUDを使ったラウドトークンエコノミーへの貢献活動を行うと、ファンとアーティスト双方の貢献活動が可視化され、メタルへの愛をお互いに周知することが可能です。さらに、ラウドトークンエコノミーに参加しているメディアや運営、スポンサーをはじめとするさまざまな事業体など、ラウドトークンエコノミーに携わるすべての人がメリットを享受できるようになります。

そしてファンとアーティストは同じ方向を向いて活動をしているという一体感が得られ、より大きな満足感を得ながらお互いに活動を継続していけるでしょう。





"音を楽しむ"を次のステージへ

LOUDを使ってファンのアーティストのつながりをより強くし、ファン・アーティスト双方はもちろん、トークン配布者を巻き込んだラウドトークンエコノミーを実現するためにできることはさまざまです。

ブロックチェーン技術をベースにしたトークンエコノミーが鍵となります。インターネットが今では社会インフラとして充実している一方、メタル業界ではCDが売れなくなるという現実が突き付けられています。ファンとアーティストのつながりを示す数字のひとつが、CDの売り上げ枚数だったと言えるでしょう。

しかし、今ではその数字も落ち込み、音源ですらデジタル化されてスマートフォンやタブレットを通じて誰もが視聴できる環境が作られました。

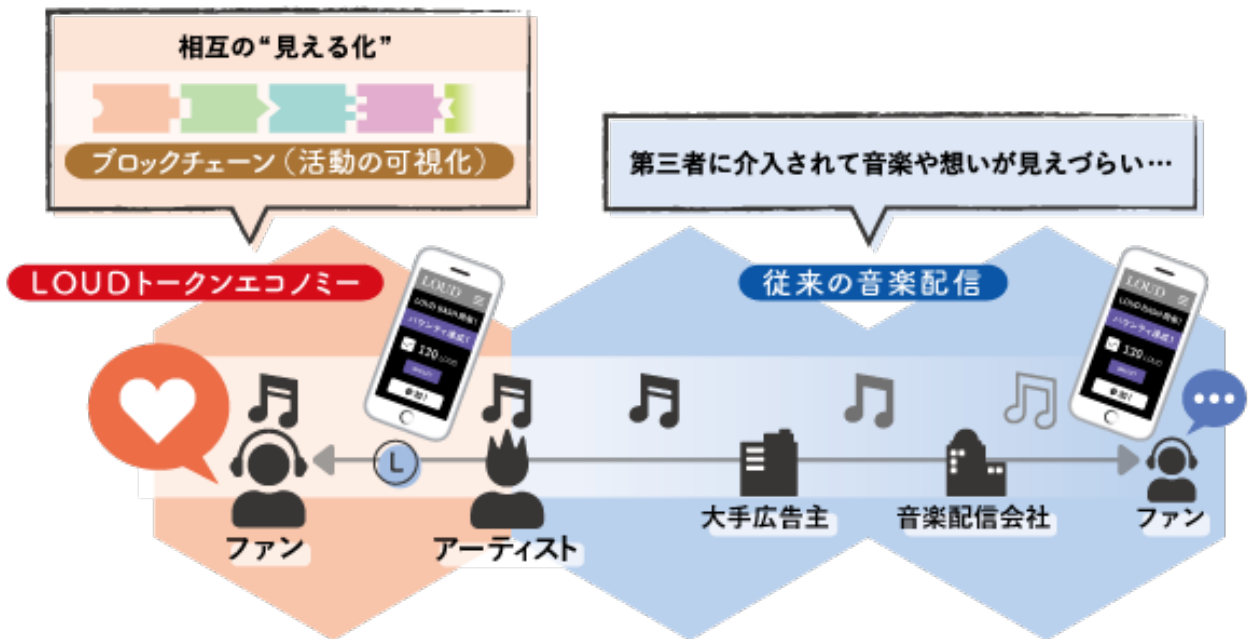
さらに、月額制でいつでも視聴可能なサブスクリプションが流行し、効率の良い販売収益モデルが作られたことで、「売れるモノ」しか売れなくなっています。

インターネットの普及によって人と人との距離が近くなったことは確かですが、その裏では大手の広告主やサブスクリプションを運営する企業など、信頼のおける第三者によって操作されていると言っても過言ではありません。

本来の音楽とは、アーティストとファンがいれば成り立つものです。ファンはもっと歌を聞きたいから支援する、アーティストはその気持ちが嬉しいからさらに良い曲を作る、この繰り返しで成り立っています。

そこに、お互いの距離をもっと縮められる「トークン」を用いることで、支援や報酬を目に見える形に表現したのが、ラウドトークンエコノミーです。ここには、今まで誰かが介入していた音楽と違って、アーティストとファンがいれば成り立つ関係が作られると言えるでしょう。





歌い手となるアーティスト、聞き手となるファンが直接つながって、歌声に乗せて思いを届けるといこと。これには、信頼のおける大手企業も広告主も、何も必要ありません。ファンとアーティストが「好き」という思いを持ってダイレクトにやり取りをし、思いを伝え合うことが重要です。

ラウドトークンエコノミーによってお互いの気持ちを可視化することで、真に「音を楽しむ」という本来あるべき姿を、私たちが作っていけるでしょう。



03

ラウドトークンエコノミーを 支える5つの要素





アーティストへの愛と信頼が可視化されたコミュニティ

ラウドトークンエコノミーに参加し、貢献するということは、そこで活動するアーティストに貢献することと同じ意味を持ちます。ファンはアーティストのために投げ銭でサポートをしたり、アーティストが企画するバウンティに参加するなどの貢献活動に参加したりすることで、良質なトランザクションが積み重なりポートフォリオが充実します。

このポートフォリオは、自分がアーティストに対してこつこつと積み重ねてきた貢献を形にしたもので、アーティストから認められるための活動となります。

ブロックチェーン上に記録されたアーティストへの貢献活動は、世界中の誰もがデータを閲覧できる分散台帳に記録されるため、積み重ねてきた成果は第三者からも認められるでしょう。これは、ファン同士がお互いのポートフォリオを確認できることも示しており、誰が・どれだけ・誰のために頑張っているのかを見ることができます。

ファン同士はお互いのポートフォリオを確認し合うことで、アーティストへの貢献度合いがわかるため、よりアーティストに貢献しようという気持ちが働きます。

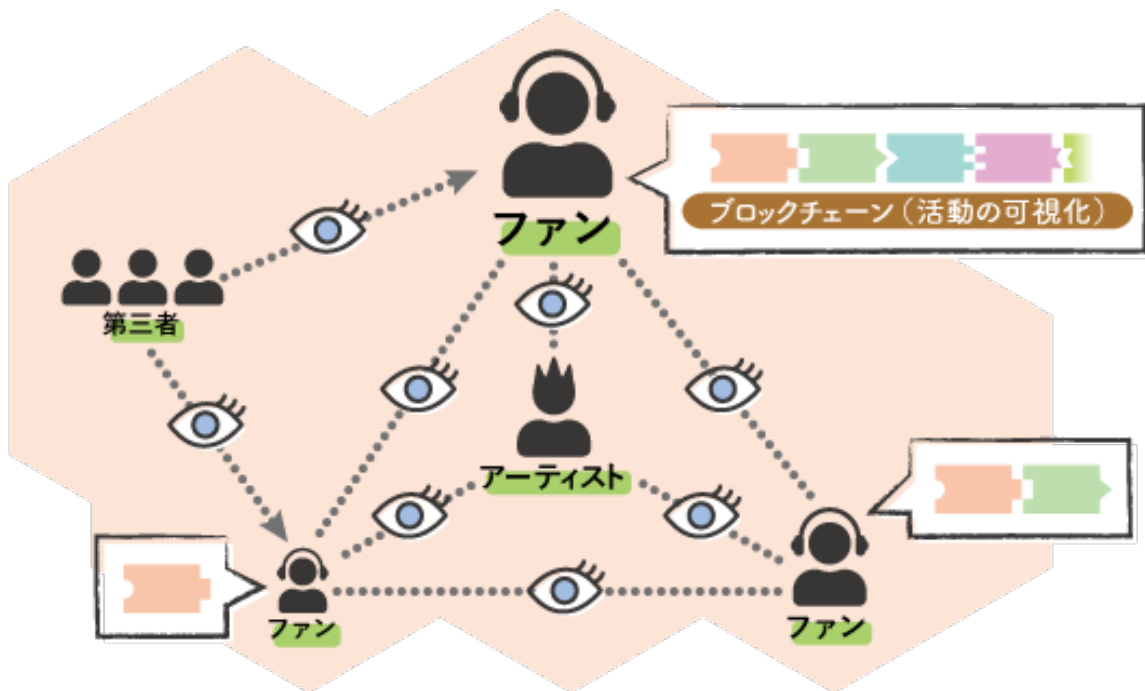
他のファンよりも多くのバウンティを達成して良質なトランザクションを積み重ね、自分が応援するアーティストに認められたいという気持ちが強まり、その相乗効果でファンとアーティストの絆はより深まっていくでしょう。

また、ファン同士がお互いの頑張りに対して敬意を払いつつ、こうして奮起することでモチベーションを高く維持しながら活動を行うことができます。良質なトランザクションを積み重ねてきたという事実はブロックチェーン上に記録され、その活動に対して嘘偽りなく本当だという保証が行われることで、これまでブラックボックス化されていたファン同士のコミュニティにも真の意味での信用・信頼が生まれます。

ブロックチェーン上に記録されるトランザクションには、信頼のおける第三者の保証などは必要ありません。ファンがアーティストに対して活動をしたことは誰の保証を必要とすることもなく記録され、信頼の積み重ねが行われるとファン同士でさらに信頼し合える環境ができあがります。こうして、また新たなファン同士の交流を生み出すきっかけが作られるでしょう。



すべての活動が可視化されたコミュニティ



たとえば、ハンドルネームのやり取りをしなくても、貢献した履歴がブロックチェーン上に記録されたQRコードを名刺代わりに交換することで、相手が今までにどのようなトランザクションを積み重ねてきたかがわかります。ファンはお互いの活動を知れば、それだけアーティストに尽くしてきた人だと敬意を払い、ファンとして行ってきた貢献度の高さをおのずと知ることになります。

ラウドトークンエコノミーでは、このようにファン同士がお互いの情報を簡単に把握できるようになり、お互いのつながりが強くなる仕組みです。

お互いに可視化されたファン同士のつながりは、信頼や関係性が不透明な今よりもよりいっそう強く、かつ気軽に関係を作っていけるようになるでしょう。





誰からもわかるファン同士のヒエラルキー

ファン同士がお互いのポートフォリオを確認できるということは、ファンとファンがおのずと自分たちの位置関係を把握できることにつながります。これまではファンの間での知名度や資金力など、あいまいな要素によって成り立っていたファンの順位や貢献度の高さが、ラウドトークンエコノミーでは誰もが疑う余地のない順位へと変わります。ファンひとりひとりが行ってきた活動が可視化され、無用な争いや妬みが生じることなく、ファン同士でのヒエラルキーという安定した秩序がもたらされるでしょう。

ファンのレベルがまったく違っていると、話題についていけないファンがいたり、輪に入れないファンがいたり、ぎすぎすした雰囲気になることがあります。しかし、ラウドトークンエコノミーでは会話をしてファンがお互いにレベルを探るのではなく、トランザクションの積み重ねを見れば、一目でそのファンのレベル、そして自分のレベルを把握することが可能です。不要な争いが生まれることなく、ひとりひとりのレベルに合わせたファン同士のつながりを持つことができ、ファン同士のコミュニケーションも密になります。

「安定した秩序」によってもたらされるファン同士の平和的な関係は、ファンひとりひとりがラウドトークンエコノミー内で努力をした結果です。ファン全体として貢献活動をした結果ではなく、ひとりひとりのファンによって行われた活動が、個人に帰属する揺るぎのない真実と言えるでしょう。

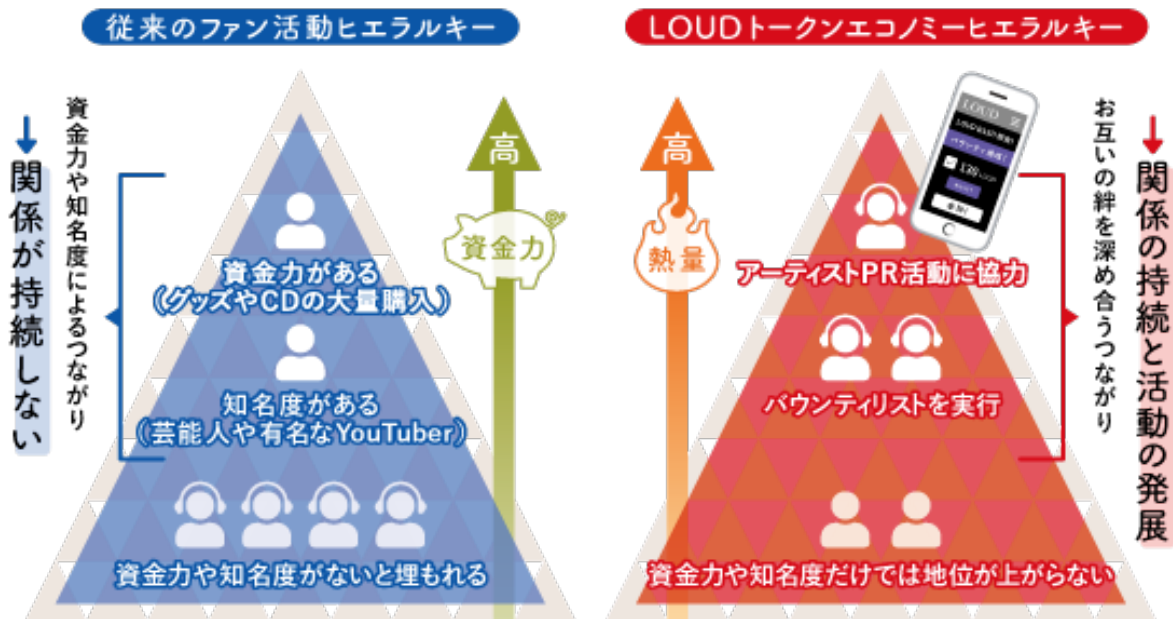
ラウドトークンエコノミーに参加するすべてのステークホルダーがこの結果を受け入れることで、他のファンはこの結果に競争心を持ったり、さらにアーティストに認められたいと思ったりすることで、より貢献活動を続けようと向上心を持ちます。このように、活動の積み重ねを誰からも見られる状態になっているということは、ファン内のあいまいな順位付けが行われなくなり、ラウドトークンエコノミーに参加するすべてのステークホルダーに対して公正・公平な機会提供が実現できるということです。

現状の自分よりも上の位置にいる相手のポートフォリオがすべて可視化されていれば、どのような活動を積み重ねた結果、今の地位を獲得したのかがわかります。それは、ファンが理想とするべき目標であり、決して越えられない目標ではありません。多くの資金を投じなくても、バウンティに参加してアーティストへの貢献活動を積み重ねれば、誰にでもその機会は訪れます。



CDやグッズを大量に買ったり直接的な資金援助を行ったりしなくても、ファンは自分の力だけでアーティストに対する貢献活動、すなわち愛を伝えることができ、さらにファン内でも上の地位を目指すことができるようになるでしょう。

熱量の“見える化”がファンとアーティストの関係性を変える



その愛が強ければ強いほど、ファンは良質なトランザクションを積み重ねてポートフォリオを強化でき、数多くのファンの中でもゆるぎない地位を手に入れられます。

これはどのファンにも実現可能なことで、レベルの高いファンが増えれば増えるほどアーティストの活動も活発化するだけでなく、ラウドトークンエコノミー全体の発展にもつながるでしょう。

ファンひとりひとりが積み重ねてきた価値をお互いに認め合えば、想像を超える相乗効果が期待できます。その恩恵は、すべてのステークホルダーがラウドトークンエコノミーを通じてメタル文化と経済の発展という目的で受けられるようになるでしょう。





アーティストがファンを選べる

ラウドトークンエコノミー内に安定した秩序が訪れることで、アーティストは今までと違うアクションをファンに求めることができるようになります。ファンは、アーティストが企画するバウンティに参加して内容を達成して報酬を得ています。それは、アーティストが本当に求めているファンを選んでいると言い換えられるでしょう。

バウンティという方法を通じて、アーティストは真に自分を応援してくれる・求めてくれるファンを見つけることができ、ファンもアーティストが本当に求めていることがわかります。良質なトランザクションを積み重ねたポートフォリオを持つファンがわかれば、アーティストもその努力に応えることができます。

つまり、アーティストはバウンティを通じてファンに試練を課していると言えるでしょう。その結果として、アーティストが理想とするファンのヒエラルキーができあがり、その中から特に貢献度の高いファンをアーティスト自身が選べるようになります。

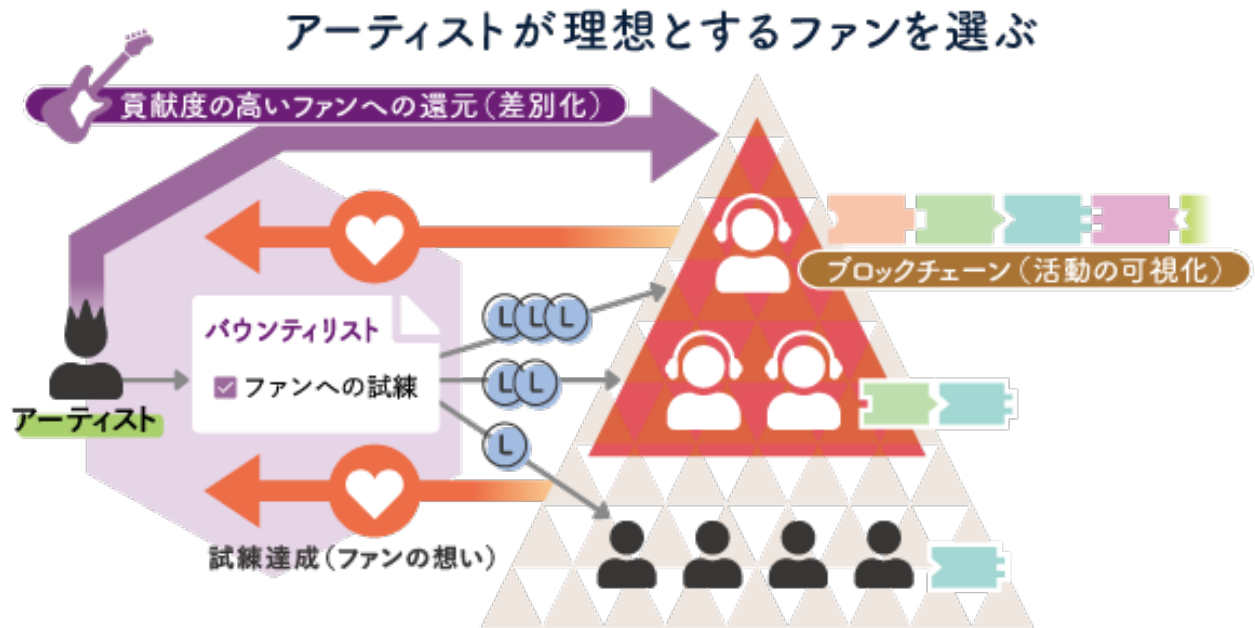
選んだファンへ、アーティストは特別な感謝の気持ちを表すことができます。

本当に努力を重ねて成果を残してきたファンのポートフォリオは、良質なトランザクションで充実しています。アーティストは信頼のおける第三者の証明を必要とせず、努力してきたファンに対して直接恩返しが可能になり、ファンとアーティストの直接的なつながりが強くなるでしょう。

アーティストはファンを自ら選ぶことで、差別化を図ります。たとえば、未発表の新曲をいち早く誰に聴かせるか考えたとき、アーティスト自身も、貢献度の低いファンより貢献度の高いファンにこそ、早く自分のコンテンツを届けたいと思うでしょう。愛用しているギターをプレゼントする、フェスのバックステージを案内する、私物をプレゼントする、直接感謝の気持ちを伝える、これらはやはり自分を愛してくれているファンに対して、アーティスト自身がやりたいと望むことです。

アーティスト自身がファンに対して本当に感謝をしているという気持ちを伝える手段ができ、ファンもアーティストからの気持ちを欲するために、より貢献活動に力を入れるでしょう。





こうしてファンからもらったパワーを、アーティストは音楽活動の糧にします。
さらにそのパワーをもらうために、ラウドトークンエコノミー内でアーティストは多くのバウンティを企画してファンに対する試練を課します。その試練を乗り越えた真のファンは、より大きなパワーをアーティストへ届けられる貴重な存在であり、アーティスト自身も望む理想のファンとなるでしょう。

このように、アーティストがファンを選べるということは、ファンの熱心な活動が必ず報われてアーティストに認められることです。





ファンがアーティストを育てる

ファンの中には、新たなアーティストを発掘することに興味を持ち、ブレイクすると途端にその熱が冷めて、また新たな発掘に乗り出すというファンが一定数存在します。特にメタル文化においてはその傾向が強く、売れ出すと敬意を込め、いわゆる「ディスリ」をすることもよく見られます。メタルというジャンルは世の中への怒り・抑圧されたことへの怒りなどをもとに、過激な表現で音楽が作られていることから、ファンからすると心の内を代弁してくれているという、手の届く存在であることに魅力を感じています。

初期の段階からアーティストを応援し、新たなアーティストを世に送り出すことに精を出しているファンの目利き力はとても重要であり、こうした発掘専門のファンをはじめ、メジャーになるまでを応援し続けるファン、ブレイク後にも応援するファン、すべてのファンが重要です。

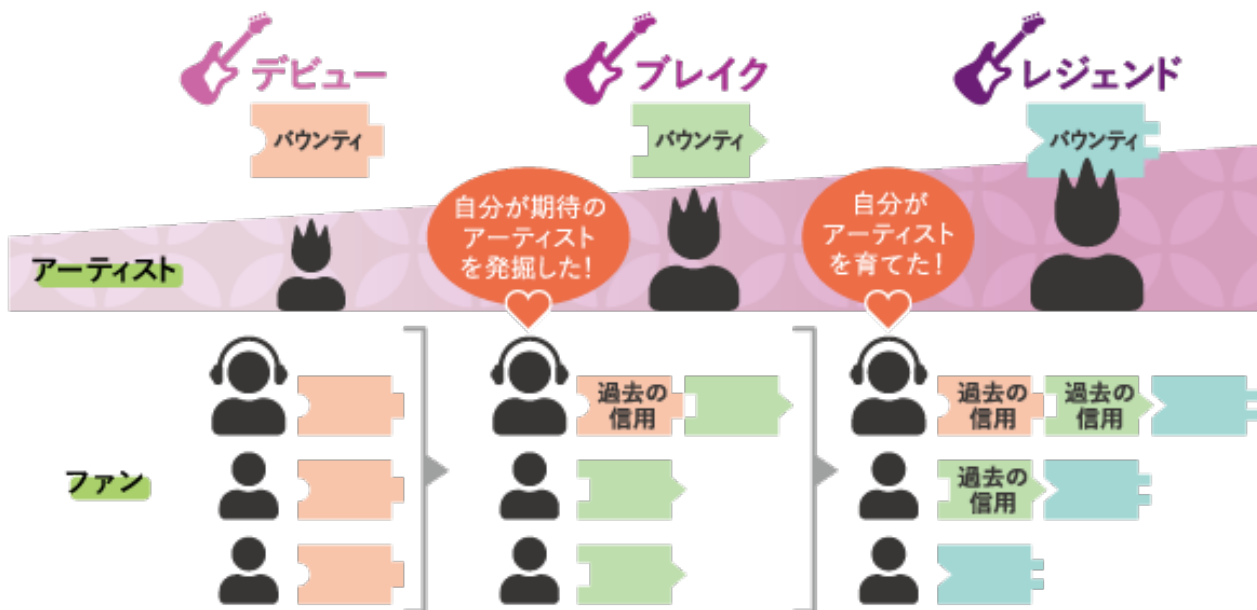
アーティストのステップアップとともに変化するファンは、すべての段階において全員が応援に対する正当な報酬を得るべきだと考えられます。ファンのポートフォリオにも、これまでにアーティストがどのように関わってきたか・どのように応援してきたかの記録がトランザクションとして残されており、誰しもが見える状態で証明されています。

このつながりはブロックチェーン上に記録され、半永久的に消えることはありません。いつの間にかブレイクして忘れ去られるだろうというファンの寂しさ、ブレイクしていつの間にかライブにも来てくれなくなったというアーティストの寂しさを払拭し、お互いがどのような立場になっても、いつまでもファンとアーティストというつながりを残すことができます。

ラウドトークンエコノミーでは、ファンの「自分がアーティストを育てた」という言葉が、真正であると証明できるでしょう。



いつから・どのような応援をしているのかが残り続ける



すべての物事が個人に帰属する社会と経済を実現できるため、メタル文化の発展においてファンがアーティストを育てる行為もまた、ファン個人に永遠に帰属します。アーティスト自身も、どれだけブレイクしてもそのファンの存在を忘れることはできず、その事実はブロックチェーン上に半永久的に残ります。

だからこそ、アーティストもファンの貢献に対して恩を報いることができるようになり、お互いの関係はより強固なものになっていくでしょう。

このように、ラウドトークンエコノミーとはブロックチェーンの技術によって過去の信用を「未来の信頼」に変えることができる仕組みです。未来の信頼とは、大きく育ったアーティストから、ずっと支えてくれたファン個人に対する感謝の気持ちと言えるでしょう。





アーティストが持つ権利・資金の流れを透明に

すべてのファン(ステークホルダー)がどのようにアーティストと関わってきたかが可視化されると、良質なトランザクションが過去の信用となり、積み重なって未来への信頼に変わって大きな価値を持ちます。

優秀なアーティストには、ファンとのバウンティによるつながりが生まれますが、これを「トラストライン(信頼の基準)」と呼びます。アーティストにはトランザクションとトラストラインが帰属しており、ブロックチェーンにすべて記録・証明されることで絶対的な価値を生み出します。この可視化されたアーティストのポートフォリオや信頼に対し、応援をしたいというファンのみならず、投資をしたいという人も出てくるでしょう。

アーティストはファンからの応援、つまり信頼を積み重ねてモチベーションを向上させ、価値のあるコンテンツを数多く世の中にリリースします。ファンはそのコンテンツを受けてより一層アーティストが求めるバウンティに参加し、貢献していきます。

そして、このサイクルに経済的な動きができるとともに投資をしたいという外部の人が参加し、ラウドトークンエコノミーはさらに拡大し続けていくでしょう。

アーティストのバックについているファンからの応援・ファン自身が積み重ねてきた貢献活動・アーティストへの投資をした収益や権利、これらはすべてブロックチェーンで記録・管理されます。

つまり、ラウドトークンエコノミー内のひとりひとりが安心して、それぞれの役割を果たすことができるということです。

アーティストはファンからの応援によるトランザクションだけではなく、投資を受けた際にも不正なくその記録を確認できます。

自身の活動が評価され、そこにビジネスチャンスがあると大きな期待をしてもらったと言い換えることができ、アーティストはより一層活動の幅を広げることができるでしょう。

また、アーティストが受けた投資はブロックチェーン上に記録されることはもちろん、スマートコントラクトという仕組みによって公平に処理されます。音楽において金銭が絡むトラブルは少なくありませんが、ラウドトークンエコノミーでは投資の記録もすべて第三者が閲覧できるため、不正が懸念されることもありません。アーティストが持つ権利を明確化できることは、アーティストがファンのために自身の音楽活動に専念できるということです。





それだけでなく、アーティスト自身が受けた投資は、その後アーティストがどのように使うかを追うことができます。さらなる音楽活動のための資金として使えば、トランザクションを追うことでファンにも伝えられ、非常に透明性の高い投資ができると言えるでしょう。

さらに、ラウドトークンエコノミーを見て興味を持った外部の投資家だけでなく、すでにラウドトークンエコノミーに参加しているファン自身も投資家になることができます。ファンはアーティストによって企画されるバウンティに参加し、LOUDという報酬を得るだけでなく、アーティストに対して直接的な投資を行う、つまり金銭の支援を行うこともできるからです。

投資と言えば大きな金額を投じることをイメージしますが、たとえ小口資金であっても、ラウドトークンエコノミーであればその内容がすべてトランザクションとして積み重なっていくため、送金をした人(ファン)の背景が読み取れます。

たとえば、少額であっても金銭的な支援をした人のトランザクションを見たとき、その人がどのようにその資金を手に入れたか、その経緯がわかります。アーティストは、少額ながらも頑張って用意してくれたお金で支援してくれたことがわかるため、よりファンに対する感謝の気持ちを持つことができ、モチベーションの向上につながります。

可視化 — アーティストのお金の背景が見える





大口資金の投資であれば、アーティスト自身の活動を評価してくれたことや、ラウドトークンエコノミーにおけるファンとアーティストのより良い関係性を見て将来性を感じてくれた結果、投資をしてくれたと言えます。

つまり、ラウドトークンエコノミーにおける投資とは、少額であっても高額であってもお金の背景が見えることが、これまでの投資と違う最大の特徴です。LOUDを受け取るアーティストは満足度とモチベーションが高まり、活動を活発化することができるため、ファンはより高い貢献度を実感でき、投資家はお金だけではない達成感を味わうことができるでしょう。

バウンティの企画・参加によって、トークンはファンとアーティストの間で循環し続ける仕組みです。外部の人がこのサイクルに注目して投資をしたいと思ったときや、アーティストが活動を続けていくための資金を欲しているという資金需要が生まれたとき、直接投資を行うことができます。アーティストが自らの利益を上げる権利と引き換えに、投資家から資金を調達します。この権利は、アーティストごとにトークン化されることもあるでしょう。

また、アーティストが投資対象として果たして価値があるかどうか、これにはアーティストにどれだけ多くのステークホルダーが関わっているか、どれだけ多くのLOUDが循環しているかを見ればわかるため、誰にとっても公平です。投資家やファンはもちろん、アーティスト自身もこれまで見えづらかった利権について疑問を抱くことはありません。

すべてはブロックチェーン上に記録されたトランザクションを読み解けば良いため、誰にとってもこれまでにない、より良い投資の機会となるでしょう。トークンエコノミーでの投資とは、誰もが参加しやすい開かれた環境であり、透明性が保たれているため、安全に・安心してアーティストの活動を応援できる環境になるでしょう。



04

ステークホルダー





ファン

アーティストが企画するバウンティに参加して、LOUDを手に入れます。

バウンティに参加して、好きなアーティストの活動や、メタルの文化・経済への貢献を行うことが業界の発展につながります。その対価の報酬としてLOUDを受け取る仕組みですが、老若男女誰にでも正当な報酬が発生します。

ファンは好きなアーティストの活動を支援するために投げ銭ができますが、その原資はバウンティで稼ぐことになります。ファンはできあがったCDやデジタル音源を買うだけでなく、自分が好きなアーティストのさらなる新曲が聞きたい・ファンが喜ぶような企画やプロモーションをしてほしいという思いがあるでしょう。その思いを実現すべく、ファンが投じた投げ銭はアーティストに渡ってからどのように使われたのか、そして新曲を作るための糧になったことがわかるようになります。

ファンの思いが、LOUDという目に見える形でのトークンとなり、好きなアーティストを後押しするでしょう。

また、先見性のあるファンは、まだ芽が出始めのアーティストに対して投げ銭で応援することで、将来大成したときには、それまでの貢献がすべてブロックチェーン上にLOUDの取引記録として誰からも見えることになります。ファンとアーティストのつながりを可視化することはもちろん、その他のファンやアーティスト、すべてのステークホルダーからその関係性が認められるでしょう。

アーティスト

音楽活動を継続するために、ファンから投げ銭をしてもらいその期待に応えます。

SNSを使って新曲を披露してパフォーマンスを行い、ファンは次の活動に期待し、アーティストに対する感謝や応援の気持ちをLOUDに変えて伝えます。気持ちを受け取ったアーティストはLOUDを原資にし、新たな楽曲制作や音楽活動に勤しむ、このトークンの循環が非常に重要です。





アーティストとアーティストの間で自然と作られるヒエラルキーは、ファンから受け取った投げ銭や、バウンティ達成のトランザクションによって決定づけられます。多くのバウンティを企画・登録して報酬となるインセンティブを発生させ、自身の音楽活動に多くのファンを参加させることで、ファンとアーティストという絆をより強くできるでしょう。受け取った投げ銭やプロジェクト支援で得た資金は、バウンティを通じてファンとの一体感を高めるため、還元することも重要なポイントです。アーティストのライブやグッズ販売なども、LOUDをやり取りした取引が行われます。

また、ファンの間でも貢献度の順位となるヒエラルキーが明確になるため、ライブやグッズ販売の際には、アーティストがファンを選んで明確な待遇の差をつけることも可能です。

公平な環境での不平等な待遇を、LOUDの取引記録をもとに行うことができます。ファンはLOUDを集めて使った記録、アーティストはLOUDを受け取った記録。それらが、お互いに貢献し合った明確な記録となるでしょう。



スポンサーなどの企業

バウンティを登録します。バウンティの原資には広告費を使い、音楽産業に関する製品・サービスに関連したバウンティを企画・登録します。インセンティブを支払ってバウンティに参加してもらうことで、自社の製品やサービスに触れてもらえる機会が増えるでしょう。

ただ、モニターやアンケートのような簡易的なバウンティの場合、効果が限定的すぎるため工夫が必要となります。メタル業界というニッチなジャンルに貢献するためのインセンティブ設計を行い、効果的なバウンティを企画することが重要です。

アーティストが音楽活動に専念するための製品やサービスを、アーティストだけでなくファンに提供することも、認知度を広げるためにも必要です。





たとえば、一般のユーザーが企画したバウンティが盛り上がった場合、多くのLOUDを獲得しているアーティストや企業に比べると資本力には限界があるため、報酬を多く配布することが難しくなるでしょう。しかし、人気のバウンティゆえにそこには多くの人が集まることになります。企業はここに報酬となる資金を投じてスポンサードすることで、自身の会社を認知してもらえるチャンスをつかめます。

この流れはすべてブロックチェーンで可視化されているため、原資を投じてもらったことを隠す必要もなく、広く受け入れられるでしょう。バウンティを企画した一般ユーザーと企業との間で自由にやり取りをし、拡張性を持っていることが大きなメリットとなります。

このように、ファンとアーティストだけでなくスポンサーとなる企業も含め、何らかのアクションを行った結果がすべて正当に評価され、報酬を得られることが重要です。

そして、結果的にはスポンサーの製品やサービスが利用されるよう仕向けていきます。音楽産業に関わる企業にとってはCSRにもつながるため、既存顧客はもちろん潜在顧客に対してもアプローチが可能です。アーティストへ直接的なスポンサードを行うよりも、ファンが参加するバウンティを通じた活動を行う方が、メタル業界ひいては広い音楽ジャンルのファン・アーティストに対し、自社製品やサービスを認知させることができるでしょう。



権利ホルダー

アーティストに関わる一切の権利をトークン化します。

アーティストは投資された原資をもとにして活動を行います。権利ホルダーは、アーティストが稼いだ利益から配当を得ることが可能です。権利ホルダーとアーティストはお互いにLOUDを通じて取引を行いますが、権利ホルダーはLOUDによってトークン化された権利、そして利益をともにLOUDで手にします。

アーティストは投じられたLOUDを原資にして音楽活動を行い、アーティストごとの「セキュリティトークン」が発行されます。





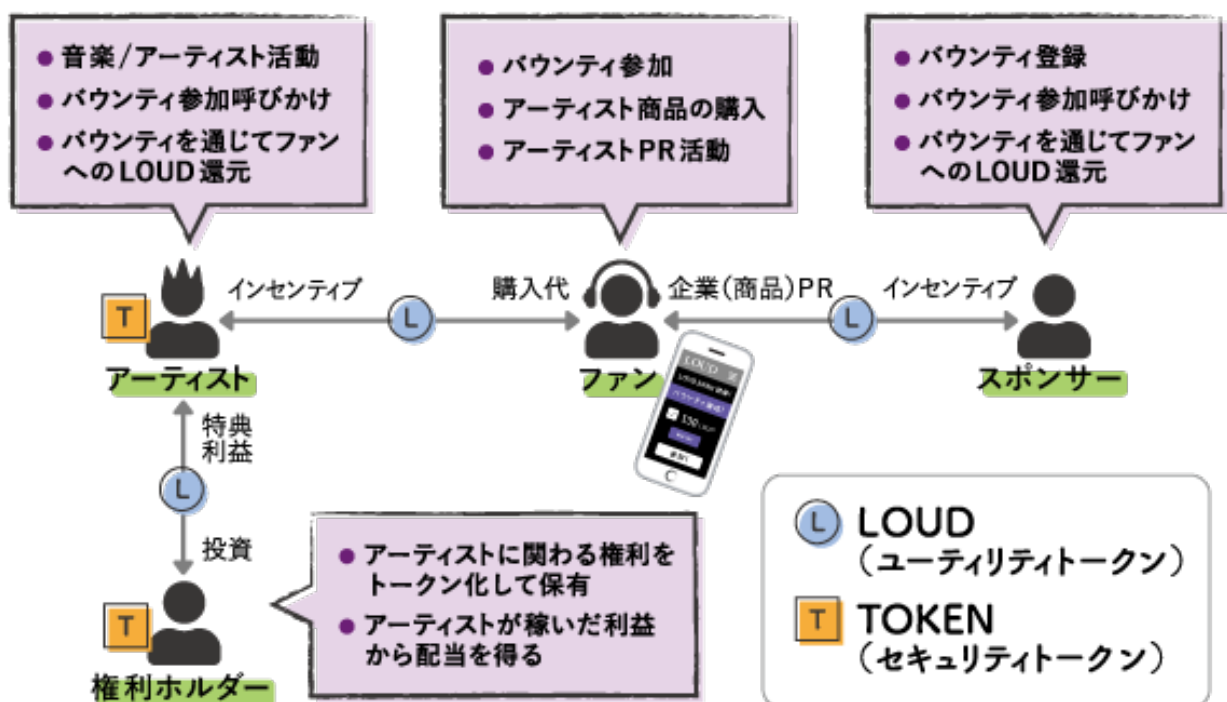
当然ながら、アーティストごとに投資による評価度合いは違うため、セキュリティトークンの価値もアーティストごとに異なります。

将来的には、アーティストの権利トークンのみを取り扱う取引所を作ることも視野に入れています。

アーティストは大きなプロジェクトや活動をするなどまとまった資金が必要となった場合、自身が持つ権利をトークン化して切り得ることで資金を得られます。権利トークンは、そのアーティスト固有のトークンであるため、よりコアなファンや投資目的での利用となるでしょう。権利トークンを持っているホルダーは、保有している期間の間はさまざまな特典や利益を得られるメリットがあります。

また、トークンの保有は改ざんされがたい環境下にあるデータとして保証されます。

誰にでも簡単に譲渡できるため流動性が高く、少額からでも手に入れられるため、マーケットへの参加者は増えることになるでしょう。

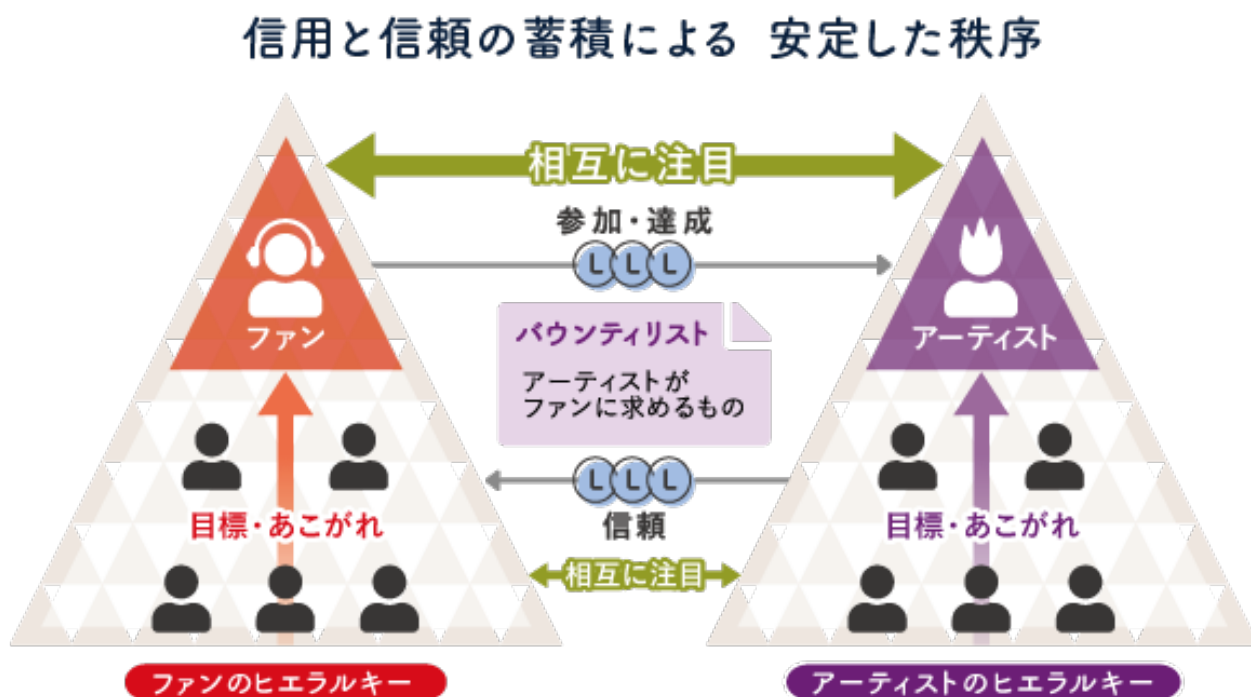


05

バウンティの重要



ファンとアーティストの信用と信頼の蓄積



ラウドトークンエコノミーのバウンティの重要性は、他のトークンエコノミーよりもトークンの循環に色濃く影響を与えることです。

ファンとアーティストはお互いが求め合うものが明確になっています。アーティストはバウンティを企画した際に、ファンに対してどのような貢献を求めているかがわかり、ファンはバウンティに参加・達成することで、LOUDをもらうだけでなく、アーティストからの信用という付加価値をもらうことができます。

アーティストはバウンティを経ることでファンからの応援や感謝が可視化され、音楽活動への意欲が向上し、ファンへさらなるコンテンツを提供することができます。

ファンはバウンティに参加することで、自分が応援するアーティストに直接的な貢献ができるため、よりファンとしてアーティストを応援するという気持ちが高まり、強い絆で結ばれます。

これほど分かりやすい「持ちつ持たれつ」の関係性は、強力なトークンの循環を生み出す礎となるでしょう。ファンとアーティストはお互いに気持ち良くなれる、楽しくなれるような工夫を盛り込んだバウンティを企画し、参加します。





そして、バウンティに参加することで報酬をもらうことができ、得た報酬は投げ銭や投資、グッズの購入、さらなるバウンティ企画時の報酬として、ラウドトークンエコノミー内で循環させることが可能です。

ラウドトークンエコノミーでは、この報酬を貯め込むことに意味がない設計となっています。バウンティで得た報酬は積極的に使うことで、良質なトランザクションを積み重ねることができるでしょう。

これは、アーティストもファンも、それぞれの立場でのヒエラルキーに大きく関わります。アーティストは、良質なトランザクションを積み重ねたファンとのやり取りを行うことで自身の価値を高められ、より自分を応援してくれるファンとの絆を強くできます。ファンは、バウンティに参加してごくわずかな額の報酬でも地道に積み重ねていくことで、アーティストから認知されやすくなり、ファンの中でも貢献度の高い人物と知られることになります。

このように、ファンとアーティストにとって安定した秩序をもたらす効果的なヒエラルキーは、誰もが納得するような良質なトランザクションの蓄積でしか成り立ちません。そのことをラウドトークンエコノミーに参加するすべてのステークホルダーが理解することで、バウンティにのり内容や数が向上し、さらなるトークンの循環を生み出してメタル文化、社会と経済が発展することになるでしょう。

バウンティによって得た報酬を使うにしても貢献度の高い者、すなわちヒエラルキーの上位にいる方が交換できる製品・サービスはより良いものになり、バウンティを通じて努力したことが正当に認められることとなります。ファンとアーティストはそれぞれバウンティに参加することで得た価値観を共有し、お互いの関係性をより強固なものへと変え、メタル文化の発展に大きく貢献することになるでしょう。



BURRN！が伝えるバウンティ

ファンとアーティストがバウンティに参加して良質なトランザクションを積み重ねることで、その成果が個人に帰属するポートフォリオとなります。

この活動自体が、メタル文化と経済圏の発展に貢献していると言えるでしょう。ファンとアーティストも個人であり、ラウドトークンエコノミーに参加するステークホルダーの一員です。バウンティによる活動の記録は他にはないユニークな情報であり、ラウドトークンエコノミー内にしかないと言っても過言ではありません。



バウンティを企画・参加することは、メタルを愛するファンとアーティストが、メタルのために日々濃密な活動を行っていると言えるでしょう。

この活動を、メタルのメディアであるBURRN！が、経済圏にとどまらず他の場所でも広く伝えていくことで、新たなメタルファンが増え、アーティストのモチベーションも上がるにつながります。アーティストの活動だけを一方的に伝えるのではなく、ファンもアーティストに貢献するために活動を行っている、双方がメタル文化の発展に貢献しているということを伝えます。

BURRN！は、双方が取り組むバウンティの活動を報じることが重要です。ラウドトークンエコノミーには、さまざまなバウンティが存在します。

性別、人種、国籍など多様性に富んだ環境におかれたすべての人が、「メタルを愛している」という理由のみでラウドトークンエコノミーのステークホルダーとして、これらのバウンティに参加できます。メタルを愛するすべてのステークホルダーが、他の誰からも干渉されることなくバウンティに参加することが可能となり、そのことをBURRN！は世界中のメタルファンに伝える義務があると言えるでしょう。

そして、バウンティに多くのメタルファンが参加することで、さらなるメタル文化と経済が発展することになります。



06

ラウドトークンエコノミーから 生まれる新規事業



ラウドフェス

バウンティを通して長く楽しめるフェス



フェスを誰もが企画し、バウンティを行ってその資金を集めることができます。フェスで得られた収益の一部は、資金集めに協力したファンや投資家へ、LOUDで配当が分配される仕組みです。また、その前後やフェス当日にイベントを盛り上げるバウンティを企画し、フェス当日だけでなくLOUDを貯めたり使ったりするメリットが得られます。たとえば、フェス開催の前にバウンティに参加し、LOUDを貯めてチケットを購入したり、フェス会場でグッズを購入できたりします。





注目すべきは、LOUDをどうやって貯めたかという過程です。

バウンティに参加して報酬としてLOUDを受け取ることができますが、どのようなトランザクションを積み重ねてきたかによって、チケットのプレミア度が変わったり、会場で購入できるグッズの種類が変わったりします。単純にLOUDを集めて保有することだけが重要ではなく、ファンがいかに頑張っただけLOUDを手に入れたかの方が重要となります。

フェスのために頑張っただけバウンティを達成したファンだけが、フェス会場のバックヤードに入れるパスを手に入れるなど、頑張ったら頑張った分だけ評価され、それに見合った待遇が用意されます。

フェスの会場では、入れ替わりでアーティストがライブを繰り広げるため、貯めたLOUDを好きなアーティストにリアルタイムで送ることができ、その投げ銭がアーティストのギャラの一部となるでしょう。

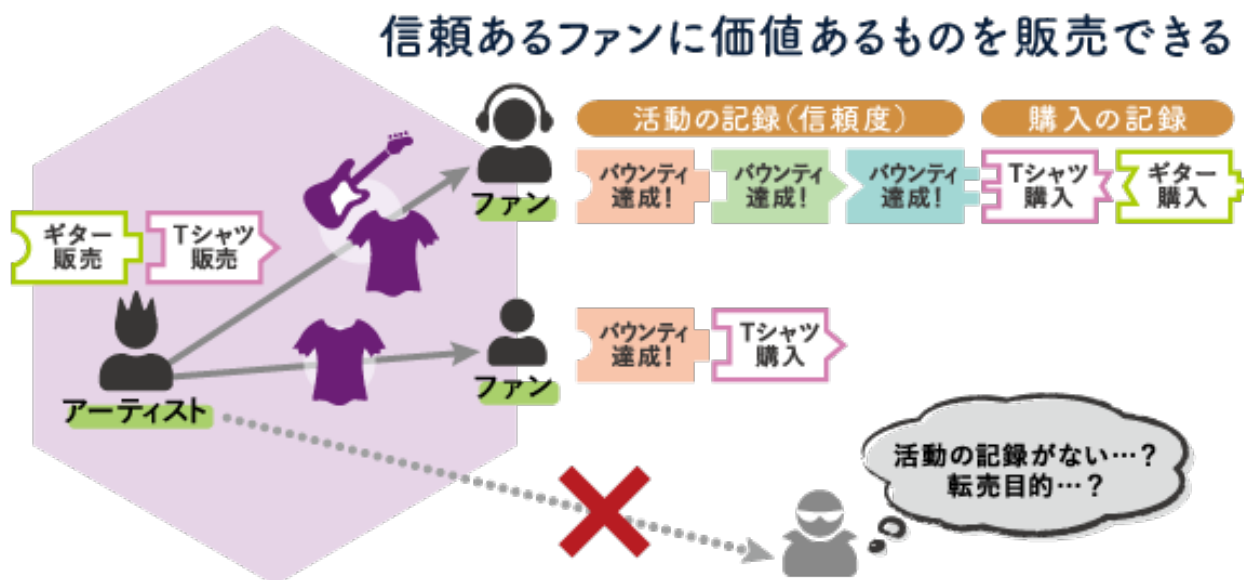
さらに、フェスの最後にはどのアーティストが一番多くの投げ銭を受け取ったのか、どのファンがフェスのために頑張っただけバウンティを達成したのか、どのファンがフェスで多くのLOUDを使ったのかなど、多くの結果を誰からも見ることができます。

フェスが開催された、フェスを楽しんだ、フェスが終わったというこれまでのフェスとは違い、当日はもちろん開催前後もバウンティの開催やLOUDのやり取りで長く楽しむことができます。

アーティストもファンも、誰がどのようにフェスに関わり、フェスを盛り上げたかという結果が可視化されることから、ファンとアーティストが一体となってフェスを成功させたという達成感が得られるでしょう。



ラウドEC&フリマ



アーティストの私物やオリジナルグッズなどの物販を行います。

LOUDを使った取引を行うことで、アーティストから販売された品物であるという真正性がブロックチェーン上に記録されます。人から人へ、LOUDで取引されたことがブロックチェーン上に記録されると、前回・前々回の取引へと順にトランザクションをたどることで、どのアーティストから販売された品物であるかが証明されます。品物の出所が証明されれば、その後他の人へ、さらに他の人へと取引されていく二次流通の価格が安定するでしょう。

アーティストも、私物を売るときにはバウンティに参加して良質なトランザクションを残すファンを選ぶことができます。愛着のある私物を大切に扱ってもらいたい思いを守ることができるほか、転売を防ぎ、本当に譲りたい・売りたいと思う人に渡すことが可能です。





アーティストは思い入れのある私物を誰に売るか、そしてファンは誰から買うかが非常に重要です。これまでは本当にそのアーティストの物なのかわからなかったり、優良な買い手であるかどうかともわかりませんでした。売り手と買い手、お互いが信用し合って物の売買をするには、信頼のおける第三者を挟む必要があったり、ファンとアーティストの間柄で生まれるであろう本来の価値を見い出すことが難しかったと言えます。

しかし、LOUDを使うことで出品者となるアーティストのウォレットアドレスを確認すれば、その商品が本当にアーティストの物だとわかるようになり、信用性が高まります。逆に、購入者となるファンも過去にどのようなバウンティに参加し、トランザクションを残してきたかがわかるため、アーティストも売る人に対する信用が生まれます。

ファンはバウンティに積極的に参加し、アーティストへの貢献活動を行い、良質なトランザクションを積み重ねていくことでアーティストからの信頼を得ることができるでしょう。



ラウドアワード

ファンとアーティストのためのアワードを、バウンティのトランザクションを中心に審査します

バウンティに参加する、達成した成果を評価する、バウンティを企画する、ファンとアーティストがお互いのため、バウンティを中心に貢献活動を行うことの素晴らしさを称賛するためのアワードを開催します。このアワードでは、アイディア次第で強く興味を惹くようなバウンティを企画することで、それに参加したファンやアーティスト双方が幸せになり、つながりが強化されます。

それこそが、ファンとアーティストがお互いを意識する瞬間です。

そこには、同じ目的であるアーティストの音楽活動、その活動から活力をもらうファン、その関係性がバウンティを経て可視化されます。アワードとは賞・レースではありますが、今までのように資金力の大きな組織や権力など、見えざる力によって結果が決まるのではなく、ファンやアーティストひとりひとりのポートフォリオをもとに賞が決まるでしょう。





ラウドサロン

ファンやアーティストが、プロジェクト型のサロンを開催すると考えてみましょう。サロンには、そのプロジェクトを成功させたいという思いを持つ共通のファンやアーティストが集まります。サロン内では参加者が積極的にコミュニケーションを図り、自身のスキルや得意分野でプロジェクト成功に向けて貢献していきます。プロジェクトのための資金はLOUDで調達し、調達した資金となるLOUDは、プロジェクトに貢献したサロンユーザーへ報酬として分配する仕組みです。

プロジェクト型のサロンでの調達に対しては配当は存在せず、資金を拠出したファンやアーティストには、プロジェクトの成果物に対して優先権が与えられます。プロジェクト型のサロンを成功させるために多くの役割が存在し、サロン参加者が応募をして役割分担を行い、その成果に対する報酬としてLOUDをサロンオーナーが支払います。バウンティの積み重ねによってプロジェクトが成功し、またバウンティに参加したファン個人もポートフォリオを充実させることができるというメリットがあります。

サロンの内容は幅広く、たとえばアーティストを中心とした交流が目的のサロンや、ファン同士での知識や経験を活かして学ぶサロンなども開催可能です。アーティストがファンに対して聞いてほしいおすすめの数曲や、ファンが他のファンにぜひ聞いてもらいたい曲などを紹介し、アーティストもファンもお互いに評価し合い、そのお礼としてLOUDを送り合えば、メタルの話題をより色濃く盛り上げることができるでしょう。

さらに、サロン内で知見が深い人や貢献度の高い人に対して、アーティスト自身がお礼としてライブに招待したり、オリジナルグッズをプレゼントしたりなどの特典を付け、頑張った人への優位性をもたらすことが可能です。これらのサロン内ではLOUDが循環するため、お互いへの感謝のしるしや、知識や経験へのお礼などを、お互いに目に見える形で受け取ることができます。

活動を行ったこと、プロジェクトの成功に貢献したことなど、頑張ったという結果がすべてブロックチェーンに記録されることで、個人のポートフォリオに厚みをもたらします。





ラウドTube

アーティストにYouTube出演してもらい、楽曲の配信だけでなく幅広い音楽活動を伝えていきます。

映像の中にはアーティスト専用のウォレットアドレス用のQRコードを表示させ、ファンは気に入った場面でLOUDを投げ銭することができます。音楽ライブ映像の配信、音楽以外の素顔を配信、音楽に込めた思いをインタビュー形式で配信、ファン参加型のプロジェクト発表をラウドTubeで配信し、その資金をLOUDで集めます。

また、バウンティを頑張っているファンを招待して座談会を行うこともでき、アーティストからの一方的な配信だけでなく、ファンとの絆を深めるツールとしても活用できます。映像メディアを通じてファンとの距離を近づけることができ、ファンからLOUDを受けとることで活動の幅をさらに広がられます。

ラウドファンド

アーティストが企画したバウンティ、ファンがアーティストのために企画したバウンティなど、バウンティを中心としてアーティストの音楽活動や、その活動への貢献度合いが誰からも可視化されます。積極的にバウンティを活用して、自身の音楽性やファンとのつながりを強める活動を行うアーティストほど、投資価値があると言えるでしょう。

つまり、人気のあるアーティストのバウンティには自ずとファンが参加し、多くのファンがバウンティを達成したトランザクションを残して貢献することになります。熱狂的なファンは、アーティストに対して貢献した爪痕を残すことで、アーティストへのアピールを行う手段になるからです。

根強いファンが多くいるアーティストは、長くファンから愛されます。

アーティストへ投資されたLOUDは、アーティスト自身が企画したバウンティの原資となり、そのバウンティへ参加したファンはさらに報酬としてLOUDを受け取ります。受け取ったLOUDを使ってアーティストのフェスに参加したり、投げ銭をしたり、私物を購入したり、アーティストの楽曲購入をしてさらなる貢献につながるでしょう。





このように、アーティストとファンの間でLOUDを循環させる仕組みが成り立っているということは、そこには報酬となるLOUDが積極的にやり取りされる「マーケット」が存在することになります。企業はそこにビジネスチャンスを見出し、参入するでしょう。企業はアーティストが持つ権利利用料をLOUDで支払い、投資家はアーティストに支払われた収益の一部を、配当として得ることができるようになります。

トークンエコノミー内での、アーティストに帰属するLOUDでの取引は、すべてスマートコントラクトで処理されるため、投資家への配当は瞬時に分配されます。また、機関投資家のような大口だけでなく、投資の小口化が可能になるため、ファンでも少額から参加できるメリットを持ちます。



07

ラウドトークンエコノミー





トークンの循環

ラウドトークンエコノミーでのトークンの循環は、とてもシンプルで明確です。それは、ファンとアーティストという強力な利害関係を持つステークホルダーが、循環の基礎となるからです。ファンが求めるものと、アーティストが求めるものが一致している関係性には、とても強力な経済の循環が生じます。

ファンとアーティストはお互いを見定め、信用できるかを確認するために、ウォレットアドレスを見せ合うことで簡単に信頼関係を構築することができるようになります。

これは、バウンティを通じてお互いの求めるものに貢献したことがブロックチェーン上に記録されているため、その真正性が保証されるからです。バウンティの積み重ねによってファンとアーティストそれぞれのポートフォリオが充実し、過去の信用から未来の信頼が生まれます。

バウンティの依頼内容は多種多様で、アーティストがファンに依頼することもあるでしょう。バウンティを達成し合うことでお互いの利害が一致するため、ここにはLOUDという報酬が循環する仕組みが生まれます。

バウンティの報酬はLOUDで支払われますが、LOUDを報酬で得るための良質なトランザクションを積み重ねていくことは、メタル文化への貢献とも言い換えられます。LOUDを単純にモノや現金と交換できる決済手段として理解するのではなく、LOUDを手に入れた方法や、どのようなバウンティに参加し、誰のために貢献したことを表すバロメーターだと理解するのが正しいと言えます。

だからこそ、真にメタルを愛するアーティストやファンが、どのような方法でLOUDを手に入れてきたのか、その貢献度合いを可視化したLOUDは、お金には換えられない価値があると言えるでしょう。





ラウドトークンエコノミーでは、すべてのステークホルダーが正当な報酬を得ることができ、それはファンとアーティストが頑張った分だけ誰からも平等に認められる社会と経済と言い換えられます。利害という強力な関係性で成り立つ集団であるからこそ、このように明確に可視化された信頼が必要です。

そして、結束の強い集団であるからこそ、信頼における第三者を必要とすることなく、ファンとアーティストが直接繋がれることは重要です。そこからLOUDというトークンの循環が始まり、ラウドトークンエコノミー内には大きな市場が生まれるでしょう。

ファンとアーティストから生まれた循環の輪が広がれば、メタルに関連のあるステークホルダーが参加することになります。そして、さらに循環は加速します。

ファンとアーティストが中心である社会と経済であることに変わりありませんが、ステークホルダーが増えればそれぞれが多様な恩恵を受けることになります。それは、メタル文化における新たな歴史を作り、ファンとアーティストの絆を強くしていくことにつながるでしょう。

これらの活動を伝えて広げるためのメディアが参加したり、資金を必要とする需要が生まれることで投資の機会も生じたりするため、より循環の輪は拡大します。すべてはファンとアーティストの強力な関係性から生じるトークン循環の渦が起点となり、新たな可能性が始まるのがラウドトークンエコノミーです。



価値の最大化

循環によってラウドトークンエコノミーには、多種多様な機会と大きな可能性が生じることになります。それは、LOUDの価値を最大化するために必要なこととなります。ファンとアーティスト、お互いの貢献活動から、すべてのステークホルダーを巻き込んだ市場が生まれます。

ファンがファンとして活動続けるモチベーションの源泉は、アーティストへの貢献活動から注目してもらい、単なるファンとしてではなく一個人として認めてもらうことでしょう。





そのためには、惜しみなくバウンティに参加し、良質なランザクションを積極的に蓄積していきます。一方、アーティストのモチベーションの源泉は、音楽活動に人生のすべてをかけ、それを理解し支えてくれるファンがいることです。

アーティストが音楽活動に専念できると、ファンが熱狂できる心のこもった楽曲が完成するでしょう。より色濃くメタル文化を形にした音楽と、それを好むファンの効率的なサイクルが出来上がります。

アーティストが音楽活動に専念できるための製品やサービスを持つステークホルダーが参加することで、市場はさらに活性化します。ファンは、その製品とサービスを喜んでアーティストへ提供することになります。

アーティストが活動を拡大するための資金需要が生まれれば、資本力のある投資家が参加する機会が発生することになります。ラウドトークンエコノミーにおける投資家は、投機によるリターンを求める人だけではなく、純粋なファンの一部も投資家になれるのが大きな特徴です。バウンティに参加した報酬を貯めて、アーティストが行う新しいプロジェクトに投資することで、立派な投資家になれます。

さらに、LOUDを使って投資された資金は、アーティストがどのような使い道をしたかが可視化されるため、ファンも投資家も安心して投資ができるでしょう。LOUDが潤沢に循環するラウドトークンエコノミーの価値は、ファンとアーティストを中心として増加していくことになります。



個人への帰属

ファンとアーティストの活動によって、ラウドトークンエコノミーは発展します。

その貢献活動は可視化されることで、貢献度の順位となるヒエラルキーが生まれます。このヒエラルキーは誰からも納得され、公平だと理解されるため、ファン同士での争いが起きることなく「安定した秩序」をもたらすでしょう。

そのため、アーティストは貢献度の順位となるヒエラルキーから、活動の貢献度に応じてファンを選ぶことが可能です。アーティストからファンへの認知や好待遇を期待できる差別化が生まれ、ファンはヒエラルキーをもとに自身と他のファンのポジションも確認できることになります。

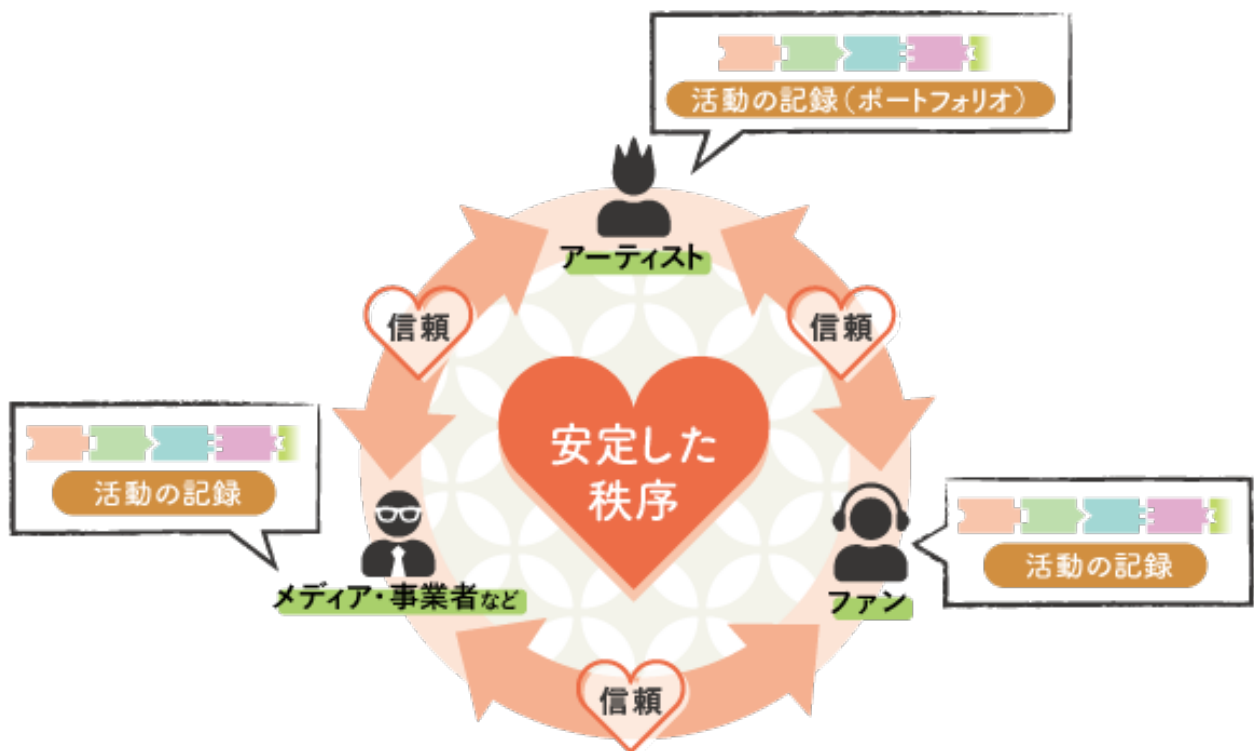




ファンだけではなく、アーティストも同様に自身と他のアーティストのポジションを認識できるようになります。このヒエラルキーはブラックボックス化されたものではなく、なぜ自分が今この位置なのか、なぜあのファンやアーティストはこの位置にいるのか、それぞれのポートフォリオを見ることで納得できるでしょう。

ファンもアーティストも、このことがさらなるモチベーションとなり、ヒエラルキーの上位を維持させるための努力や、上位を目指すための努力につながります。これは、ラウドトークンエコノミー全体における市場活性化のための大きな原動力とも言えるでしょう。ファンとアーティストが個々の力を認め合うことで、過去の信用から未来への強力な信頼が生まれます。

すべての情報が個に帰属 公平で納得できるコミュニティ





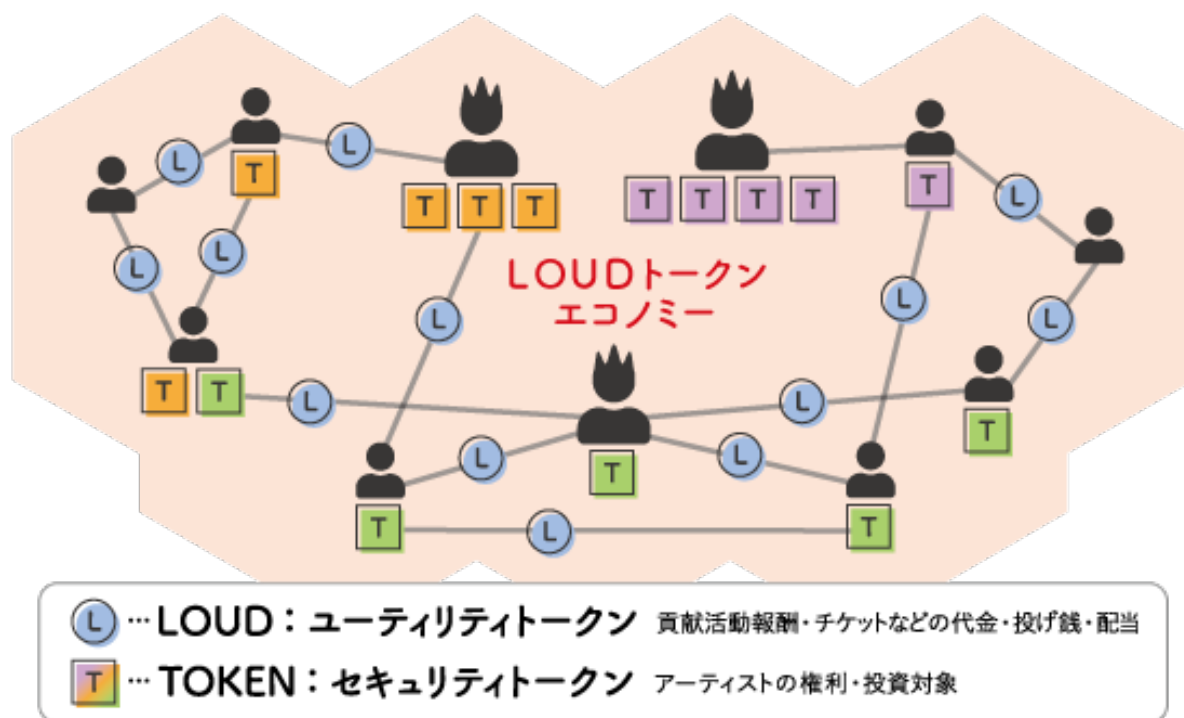
ラウドトークンエコノミーで起こるさまざまな物事は、バウンティに参加する個人、活動を行うアーティスト、活動を報じるメディア、ビジネスチャンスだと参入してくる事業体など、すべてが個々の力によって起こることです。だからこそ、メタルの発展に貢献するために行った活動は、どの立場であってもすべてが個人に帰属し、正当に評価される社会と経済が作られるのです。そこには多様性や個々の違いに対する差別や偏見はなく、ラウドトークンエコノミーに参加するすべてのステークホルダーが平等に認められます。世界中にいる数多くのファンとアーティストは安心・安全に、好きなメタルを楽しむことができるようになり、同じ価値基準で認め合える人たちが集う楽園になるでしょう。



08

トークン設計





LOUD: ユーティリティトークン

投げ銭として使われたり、バウンティ達成時の報酬となり、ラウドトークンエコノミー内で利用できるトークンとして使われます。

ファンやアーティストの間でLOUDが循環することで、トークンエコノミーの価値が可視化されます。LOUDでの支払いでしか参加できないライブやグッズの販売が行われたり、LOUDを用いてファンがアーティストへ感謝や応援の気持ちを伝えたりもできます。

アーティストはLOUDのやり取りとなるトランザクションを蓄積することで、未来への信頼につながるでしょう。未来への信頼は、音楽活動の安定とアーティストの価値の投影を意味し、LOUDでファンとアーティストがつながるトークンエコノミーが出来上がります。

手に入れたLOUDはそのまま保有し続けることが重要なではありません。

ファンもアーティストも、ラウドトークンエコノミーに参加する人すべてが、どのようにLOUDを手に入れたか、どのようにLOUDを使ったが重要です。ラウドトークンエコノミーに関わる人々のやり取りを経てプラスの価値を得たLOUDは、お金に換えられない価値を持つでしょう。





TOKEN：セキュリティトークン

アーティストが持つ各種権利をトークン化したアーティストトークンです。

アーティストごとにトークンが発行され、LOUDでのみ購入することが可能です。総発行量はどのアーティストでも必ず同じ数量にすることで、ホルダーによるコレクション性を上げられます。

ただし、1トークンあたりの価値はアーティストごとに異なり、その価値は市場が決めることになるでしょう。そのため、アーティストごとにLOUDでのトランザクションを見えるようにし、投資に対しての費用対効果をわかりやすくします。

たとえば、積極的にバウンティを企画し、自身が保有するLOUDを報酬としてファンに渡したり、参加者を多く集めて活動を行ったりしているアーティストは、自身の音楽活動における積極性が高いと評価されるでしょう。

ファンとアーティストのバウンティを通じたつながりを可視化することで、アーティスト自身の将来性も可視化されることになります。

アーティストへの信頼・根拠を持って投資の判断ができる仕組みとなり、アーティストもまた自身に投資をしてもらえよう積極的に活動を行うループが生まれるでしょう。



09

事業戦略





1stPhase — 新しいメタル業界のモデル

バウンティでのLOUDの循環を優先し、LOUDを循環させる仕組みを定着させるようさまざまなノウハウを得るフェーズです。

LOUDには強力な関係性をもつファンとアーティストが存在しますが、この二者間によってLOUDを循環させる仕組みを構築する必要があります。ここで、LOUDの価値基準をトークンエコノミー内で決定できるよう、需要と供給の仕組みを作っておかなくてはなりません。

すべてのステークホルダーはラウドトークンエコノミー内で、自身が持っているそれぞれの価値をLOUDによって可視化することができます。その価値は、スキルや所持品で決められるものでも、持っている日本円で決められるものでもありません。多種多様なバウンティとその積み重ね、ひとりひとりの努力によってすべて決定されます。

2ndPhase — LOUDによる新しい価値基準が生まれる

ファンとアーティストの関係性を再構築して、LOUDが循環している状態です。

そこには、メタル文化を発展させるために必要となる良質なトランザクションが存在しています。ファンとアーティストの間にある応援や感謝の気持ちをトークン化し、その価値が見えるようになります。

その結果、ファンはアーティストへの貢献度や依存度を高めるためにLOUDを得るためのバウンティに積極的に参加し、良質なポートフォリオを残そうと努力するでしょう。アーティストはファンをOne of Themで判断するのではなく、ファンのポートフォリオを読み解いてOnly Oneで対応しようとしています。

このように、ファンとアーティスト間におけるLOUDの循環を重要視したこの戦略では、ラウドトークンエコノミーの強固な礎を構築していきます。そこには、LOUDを中心とした新しい価値基準が生まれるでしょう。





LOUDは法定通貨や暗号資産で購入できるようにしていきますが、このフェーズでは購入したLOUDは他の法定通貨や暗号資産には交換できません。LOUDを資金決済法の前払い式決済手段として取り扱うことで、LOUDをスポンサーやサードパーティーなどの企業が手に入れやすい環境を作ります。そして、他人資本を利用して、ラウドトークンエコノミーの経済圏をさらに拡大するフェーズへと移ります。



3rdPhase — メタル業界への新たなビジネスチャンスの創出

LOUDを、他の法定通貨や暗号資産と交換できるようにします。

ラウドトークンエコノミーの中でトークンがしっかりと循環して、需要に対応できている状態は、他人資本が流入してLOUDの流通量が増えている状況と言えるでしょう。通常、スポンサーやサードパーティーがトークンを得る以上に、消費する手段が増えない場合はトークンの動きがストップしてしまい、他の法定通貨や暗号資産への交換を望む圧力が高まります。トークンの配布体はそうならないように、トークンの利用や消費手段を提供する努力をしなければなりません。

ただし、「交換ができる」という選択余地があることで、ユーザーにとって一定の安心感を与えることにもなるでしょう。

また、日本国内の取引所へ上場すれば、その実績は海外で高く評価される可能性もあります。そうして副産物的なメリットもあることを考えるフェーズとなります。



4thPhase — ラウドトークンエコノミーの成熟

トークンの配布体による支援がなくても、ラウドトークンエコノミーの仕組みを理解したステークホルダーの努力によって、少しずつ経済的・社会的な拡大が見られるようになります。ラウドトークンエコノミーに参加する人々だけでLOUDを常に循環させ、新たなステークホルダーを生み出し、さらなるコンテンツを作り上げていきます。

ファンとアーティストが循環の要であることをすべてのステークホルダーが理解し、ラウドトークンエコノミーへ参加することで、メタル文化の成熟・社会・経済への発展へ大いに貢献している状態と言えるでしょう。

それこそが、私たちの目指すべきラウドトークンエコノミーの真の姿です。



10

システム開発





バウンティ参加画面



バウンティ達成画面



※サンプル画面です。実際のデザインとは異なる場合があります。



11

プロジェクトメンバー





株式会社アヤナス代表取締役

川本栄介

兼トークンエコノミーエバンジェリスト



日本のブロードバンド黎明期より楽天、サイバーエージェントなどインターネット企業において主に新規事業を中心に活躍。Slerやスタートアップなどを経て、DMMではオンラインサロンやブロックチェーン関連の新規事業部長を歴任。2018年10月より現職。

株式会社アヤナス代表の川本栄介は、元DMM.comのスマートコントラクト事業部長であり、幻冬舎「あたらしい経済」の『ゼロからわかるトークンエコノミー』(<https://www.neweconomy.jp/series/zerokara/15731>)などを執筆しながら、仮想通貨・ブロックチェーン領域における専門性を活かし、新たなトークンエコノミー（経済圏）の創出に貢献することを目指す。

株式会社SecretSociety 代表取締役

小杉茂



Metal, Hard core, Punkを専門に1990年にインディペンデントレーベルHOWLING BULLを設立。

90年代後半のインディーズムーブメントを支える。Air Jam、Beast Feast、Independence-D、Loud Park等の個性的なジャンルに特化したフェスの立ち上げを手がける。アーティストマネジメントは、UNITED, Garlic Boys, Hi-Standard, Oceanlaneといったシーンを牽引するバンドを手がけ、国内外200以上のアーティストに関わる。

昨今ではアーティストの「こころ」の繊細さにどう向き合うかという観点から、カウンセリングの技術を音楽業界に取り入れるべく活動している。

また、2019年にはヘヴィメタルのコミュニティーを支えるための新会社Secret Societyを立ち上げ、新しいアーティストとファンの形を作るための準備を開始している。

